カルメル
霊性センターニュース

2017年3月　　329号

目次

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・１７

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

名古屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

北陸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・・４４

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

心の泉

第三巻

第四章　神のみ前に、謙虚に真実に生きなければならない

４　謙遜

ある者は、私の前を真実の心をもって歩まず、ある種の好奇心と厚顔で私の神秘を探り、神の至高のはからいを知ろうとし、しかも自分の救いをまったくおろそかにしている。だが彼らは、その高慢と好奇心とのために退けられ、しばしば大いなる誘いと罪の虜となるのである。

５　神の裁きをおそれなさい

神の裁きをおそれ、全能であるお方の怒りにおののけ。いと高きお方のみ業をあげつらうことなく、ただ自分の罪の深さを思い、いかに多くの罪を犯し、いかに多くの善を怠ったかを省みなさい。ある人は書物に、あるいは聖なる絵に、あるいは外部的な儀式に、信心のすべてを置こうとする。彼らは口で私を語るが、心にはほとんど何も置いていない。ところが、ある人々は、知恵を照らされ、愛情を清められ、つねに永遠にあこがれ、地上のものに耳を傾けず、しぶしぶながら人間としての必要を満たしている。彼らは、自分の内に心理の霊が何を語るかを悟るのである。なぜなら、真理の霊は地上のものを軽んじ、天上のことを愛し、この世を捨てて、昼夜を問わず天にあこがれなさい、と教えるからである。

呼ばれています　　１７－３月

″聖なるもの″になるように

主は　わたしを愛し
　　わたしのために
　　身をささげられた　　ガラ　２・２０

３月１日は「灰の水曜日」、４旬節がはじまります。「あなたはちりであり、ちりにかえっていくのです」、または「回心して福音を信じなさい」と、一人ひとりの頭に灰をかけ、司祭は回心を促します。復活祭（４月１６日）までの４０日間、十字架上の死へ向かうイエスの道のりを私たちも日々の生活でともに歩むよう招かれています。

私たちはこの世に生きる限りみな苦しみからまぬがれることはできません。どんな生活様式、生活状況の人にも例外なく苦しみは付きまといます。そして私たちはその苦しみからできれば逃れようともがきます。「キリストの苦しみを身に帯びたい」と願っていた三位一体の聖エリザベットは、どのようにしていたのでしょう。「十字架の前に立ち留まり苦しみだけを見つめてはいけません」、あまりにも自分の苦しみばかり見つめすぎると、≪悲劇の主人公≫に自分を仕立ててしまいます。「苦しんでいることを思わないで、苦しむことを望む」聖エリザベットは、自分を忘れることの大切さを教えてくれます。

日々の生活の中で具体的に神の愛に応えることは簡単ではありません。これは誰もが体験していることで、聖エリザベエトも例外ではりませんでした。「少しばかり疲れを感じるとき、私は、まず十字架に掛けられた方を眺めます。キリストが私のためにそこまで身を任せられたことを考えますと私も主のために自我を乗り越え、主が私のためにしてくださったことに、ほんの少しでもお返しすること以外何もできないように思われるのです。」＊

伊従　信子（いより　のぶこ）
ノートルダム・ド・ヴィ

＊『神はわたしのうちに　私は神のうちに』伊従信子著、聖母の騎士社

敵を愛せ

九里（くのり）　彰

あなた方も聞いているとおり、「隣人を愛し、敵を憎め」と命じられている。しかし、私は言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。（マタイ 5・43-44）

この言葉を初めて耳にした時、だれもが新鮮な驚きを感じたのではないだろうか。ここに崇高な真理があると…。だが、すぐに現実にひきもどされ、「そんなことは、とても実行不可能だ、無理な理想だ」と自分に言い聞かせているのではないだろうか。「人を赦すこともできないのに、敵を愛することなど、到底不可能だ」と。

確かに、「愛する」という言葉を、人間間の好き嫌いの感情として捉えるならば、その通りであろう。しかし、「敵を愛せ」というキリストの言葉は、「敵を好きになれ」ということではない。

そうではなく、「好き嫌いの感情で揺れ動く人間の地平を超えよ」ということである。言い換えれば、好き嫌いの感情を抱くのは他ならぬ自分であるから、「好きだ、嫌いだ」とつぶやいている「自分自身から離脱せよ」ということである。

普通、人の心は自己愛に凝り固まっている。自分の思うようにしてくれる人、すなわち自分に優しくしてくれる人――その優しさが本当にその人のためになっているかは別――を好きになり、自分の思うようにさせてくれない人、自分に厳しい人を嫌いになる。

好き嫌いの感情に意見の対立がからめば、無条件に好きな人の意見が正しいと同調し、嫌いな人の意見が間違っていると排除する。こうしてさまざまな分野で、またさまざまな次元で敵と味方が生じてくる。

したがって、「敵をも愛せ」という命令は、「敵味方の次元を超えよ」ということに他ならず、好悪の感情に囚われている「人の心」から、「悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせる」(45)、誰をも差別しない無限に深く広がる大空のような「神の心」へと超出することに他ならない。キリストは、「あなた方の天の父の子となるためである」（同）と言っておられる。つまり、「神の子」として、敵も味方もない「神の心」と一つとなり、その次元から人を赦し、「敵を愛せよ」と命じておられるのである。

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（111）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

行って、殺しなさい…

このタイトルの後に、何か言葉を続けてもよいかもしれません。今回の話は、以前、すでに見た 1591 年夏のラ・ペニュエラでの火事や野兎の話の補足のようなもので、とても簡単なものです。

警鐘が鳴らされ、修道者たちが何が起きたのか見るために走り寄って来た時、聖人（訳注：十字架の聖ヨハネのこと）も外に飛び出しました。火事を引き起こしたのは、聖マリアのクリストバル修士でした。彼は火事となることを望んだのではないのですが、言われたことに従わなかったことにより、犯人は彼であることが、それとなく分かってしまいました。哀れな修士は、引き起こしてしまったことを見た時、証人の一人が物語っているように、「その火事が大損害を与えつつあるのを見て、言葉では言い表せないぐらい、それを消そうと、力いっぱいまた一所懸命に努めました」。哀れな修士は、それによって、「疲労困憊、死んだ人ようになり、またその後で修道院長にこんなことをした者は罰せられなければならないと言われたかのようになっていました」。いつも温和な聖人は、「誰が犯人であるか知らずに、修道院長にクリストバル修士の所へ行って、鶏をひねって（殺して）与え、彼を元気づけるようにと言いました。というのも彼は体だけでなく心も疲労困憊し苦しんでいたので、そうされる必要があったのです」。

証人の一人である神の母のヨハネ修士は、こう続けています。「証人は、聖なる神父が、くだんの修士が火をつけるのを見たのでも、そうだと言われたのでもなく、またくだんのクリストバル修士が罪を犯したのか、また疲労困憊し、苦しみで満たされているのかを知るために、彼に話しかけなかったことを、確信していました。それゆえ、彼には、聖人の大きな愛（いつくしみ）が分かったのです」。

要するに、院長は、修士を罰することはなかったと思われます。院長が聖人の言葉に従ったならば、鶏が一羽なくなったことでしょう。でも、この鶏は、金の卵の鶏ではなかったと私は思います。とにもかくにも、クリストバル修士は何とよい仲介者を持ったことでしょう。

四旬節第1主日

悪魔の誘惑

(マタイ 4：1～11))

荒野でイエスが悪魔の誘惑を受けます。これは修行ではありません。イエスは全人類を代表して悪魔と対峙しています。負けたら出直せばいいというものではありません。

今日の場面はたくさんのキリスト映画で取り上げられていますが、悪魔が老人(男性)の姿で現れたり、何の姿もなく声だけが聞こえ、毒蛇の姿がちらりと映ったりとそれぞれ工夫しています。

主は荒野で 40 日間父なる神との交わりを深めていたのですが、その間にこの誘惑がありました。荒野へは「霊」に導かれて行きます。聖霊の導くままに歩まれていたのです。三つの誘惑があります。ルカ福音書と第 2、第 3 の順番が入れ替わっています。マルコ福音書では誘惑の具体的内容が書かれていません。人間は主の受けられた誘惑を具体的に知らなくてもいいのかもしれませんが、マタイとルカのおかげで知ることができます。主ご自身、使徒の何人かには語られたのでしょう。

最初に石をパンに変えてみよという誘惑があります。主は「『人はパンだけで生きるのでなく神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある」と言って悪魔を退けます。3 回とも申命記を引用して悪魔を退けます。おそらく申命記は暗記しておられたのでしょう。悪魔は、メシアとしての力をふさわしくないときに正しくない方法で、間違った目的のために使わせようとしたのです。

次に悪魔はイエスを神殿の屋根の端に立たせて、飛び降りてみよと言います。これは実際に神殿の屋根に立ったのでなく(祭司でないイエスは神殿の中に入れません)、霊的な世界での出来事でしょう。この誘惑は、十字架にかけられたイエスに対して「十字架から降りてきたら信じてやろう」と祭司長や、野次馬が発した言葉と同じです。これに対して「あなたの神である主を試みてはならない」と言う聖句で悪魔を退けます。

3 番目は非常に高い山にイエスを連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、悪魔を拝めばこれをみんな与えようと言います。これも霊的世界でのお話でしょう。世のすべての国々とその繁栄が見える山はないからです。また、これを与える力があると言うのはうそです。世は究極的に神の支配下にあるからです。これに対しイエスは申命記 6：13「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」を引いて悪魔を退けます。申命記の最も重要な部分です。イエスは復活後「私は天と地の一切の権能を授かっている」(28：18)と仰いました。これは 3 番目の誘惑で悪魔がそそのかしている内容とほとんど同じであると言えます。誘惑の本質は神の御計画と異なった道で、神が与えようと予定されているものを手に入れさせようとすることです。イエスはこれを退けたのです。　　(新井)

四旬節 第２主日（Ａ）　（マタイ１７：１～９）

四旬節の第二週に入り、私たちは自分の心を調べ、栄光ある復活祭の神秘の準備のために悔い改めの努めを続けます。本日の聖書の箇所は主の変容です。雲の中から弟子たちは神ご自身の声を聞きました。「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者、これに聞け！」

「彼に聞け」という招きは、直接的にはペトロと他の弟子たちに向けられています。イエスのことばを聞くとは、イエスの言うことを聞き、イエスと完全にひとつになることです。これまでは弟子たちはそのようではありませんでした。今、神の声を聞いて、弟子たちは恐れて、地面にひれ伏しました。容易い命令のように思えますが、弟子たちには従うのは非常にむずかしく思えます。彼らが体験したことが受難と死を通して彼らを導きます。ご変で重要なことは、山上で起きたことというよりは、弟子たちが山を降りて来たときに起こったことです。

御父は弟子たちにイエスに聞くようにと言われます。 真に聞くということは、 聞き手からの応答、言われたことに寄り添うこと、その意味を理解すること、それを心の中の意識的な体験とすることを必要とします。神は様々ななさり方で私たちに話しかけています。ある人には青空の一部にしか見えなくても、ある人には祈りであり、神の声を聞き、その中に天の国のドームを見ます。十字架の聖ヨハネはあるとき、神の声を聞いていると考えている人たちの多くは実際には自分の声を聞いているにすぎないと言いました。私たちはまず第一に自分の祈りを形つくろうとする前に、この瞬間に人生が何を言っているかを聞くことを学ぶ必要があります。たびたび、私たちは世界を自分自身の欲求や恐れの投影にしてしまっています。第二に、人生がメッセージを与えてくれるとき、そのメッセージを理解し、それを私たちの祈りの第一の目的としなければなりません。人生の祈りの根底には、希望の徳があり、希望はどのような事が起きても私たちの救いに必要なものを含んでいると信じる恵みです。第三に、人生のメッセージをいったん受け取ったら、それを聖霊によって生きようとする努力と統合しようとしなければなりません。聖霊は私たちの生活の焦点でなければなりません。最後に、私たちは祈って、神が何を言われているかを聞く必要があり、しかも神は私たちの祈りを必要としているのではないことを知ります。事実祈りたいという望みは神からの贈りものなのです。

今日、御言葉を聞くとき、御父はなお私たちに語りかけてくださっていて、イエスが御父の愛する子であると語っています。私たちはイエスに聞くべきです、永遠の生命の言葉を持っているのですから。イエスのご変容の栄光は、弟子たちには知らぬうちに、十字架の恥辱を受け入れる準備となっていました。 弟子たちは後になってはじめて、復活によってこれを理解することになります。今日、人生の苦しみを越えて、私たちの世界の中に神の存在を見、私たちのそれぞれに神が備えてくださっている人生の贈りものを眺めましょう。神の言葉を一心に聞き、それを実行に移しましょう。

(Sr. Paulina)

四旬節第３主日

（ヨハネ４：５-42）

今日の福音は、「サマリアの女」の話です。サマリアの女に対するイエスの想い、神の私たちへの想いを見ることができます。イエスが異邦の民に積極的に語られることから、救いがユダヤ人だけでなく、全世界へ向けたものいうことを表しているでしょうか。

ユダヤ人は、昔からサマリア人との交際を避けており、サマリア人が暮らす町や村をなるべく通らなかった様ですが、イエスは風習に囚われず、サマリア人の村へと入って行かれました。

そして太陽が輝く正午、水汲みが楽な時間でなく、人が殆ど来ない、水汲みをしない時間を見計らって井戸に水を汲みに来た女に、声を掛け、水を飲ませて下さいと頼む･･･。予想外のことにサマリア人の女が驚いている様が語られています。

イエスはご自身が与える「水」について話されますが、女は中々理解ができません。その様な中、イエスが女に初めて会ったにも関わらず、イエスが自分の夫について言い当てられたことから、段々にイエスに心が開かれてゆく様子が描かれています。

そして女は町へと「この方がメシアかもしれません。」と告げに行き、イエスは人々に招かれたのでしょう。２日間滞在され、町の人々は「わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。」とまで言うまでに変えられました。

他の福音の個所では、サマリア人の町に入ってはならない（マタイ１０：５）と弟子に言われたイエスですが、今日の福音の様なイエスの姿を見たとき、人々の姿を見たとき、イエスの到来による救いが、イスラエルの民だけでなく、異邦の民にも広がってゆく、全世界の全ての人々に広がることを望まれる「神の想い」を感じ、嬉しい思いがします。

私たちのところに来て下さるイエス。今日も来て下さるイエス。私たちはそのお方に心を開いているでしょうか。そのお方を自分のところへとお迎えしているでしょうか？イエスに近づきましょう。イエスをお迎えしましょう。イエスに水をいただきましょう。その水が私たちの内で泉となり、私たちが永遠の命へと至ることができますように。

（Fr.　古川利雅）

四旬節第４主日　（ヨハネ９：１－41）

四旬節第４主日を迎え、回心によって主にふさわしい者となり主の愛の招きを経験するよう呼ばれています。今日の福音は“世の光”であるイエスを知らせています。生まれつき目の見えない人の目を癒される、イエスの深い愛情と憐れみによる信じられないような奇跡を目の当たりにします。「わたしをお遣わしになった方の業を、まだ日のあるうちに行わねばならない。だれも働くことのできない夜が来る。わたしは、世にいる間、世の光である。」と仰せになって行われた癒しの奇跡です。

この奇跡の物語は、確かにヨハネ福音書の傑作の一つです。物語の感動的な力は、盲人が見えるようになっていく過程の細かい描写と、この盲人が人の子イエスを信じ、主として崇め礼拝するようになっていく心の微妙な変化を書き記しているところにあります。反対にユダヤ人の指導者たちは心の暗い、見えない者となっていくのです。イエスは自ら世の光あると宣言されこの奇跡の意味と目的をはっきりお示しになります。またこれは四旬節中の福音を通して与えられる洗礼の秘跡の三つのテーマ、光と水、命（いのち）と関連しその深淵な意味を解き明かします；盲人の目に与えられた光、ヤコブの井戸で女性に与えられた水、そして死者の中から生き返ったラザロに与えられた命を示唆しています。これらの力ある福音朗読は、洗礼志願者に、また既に洗礼の恵みのうちに生きるキリスト者に、洗礼の秘跡の真の意味と無限の恵みを静かにゆっくり黙想し、思い巡らすよう促します。今日の福音は自由意志によってキリストの愛を受け入れるか、拒むかのドラマのようです。

盲人の目の癒しは、盲人がイエスの仰せに従った結果、一瞬のことでであったのに、彼の心の霊的視力の回復は徐々に成されていきました。イエスと呼ばれる人としての救い主をおぼろげに把握し始めた盲人は、徐々にイエスを預言者であると大胆に宣言するようになり、最後には両親やファリサイ派の指導者に背を向け、実際には顔と顔を合わせて見たことのない神であると認識し、イエスを礼拝しました。その間、目が見えていると思っているファリサイ派の人々は、利己心と頑なさ故に益々霊的に盲目となっていきました。この盲人の癒しを通してイエスは世の光であるイエスの現存の場の光を重視しテーマとして与えておられます。本来霊的に盲目な人間は、洗礼の秘跡に与かりキリストの神秘体に受け入れられて心の視力を回復します。現代世界で心すべきことは、霊的な意味を踏まえ、様々の苦しみを受け入れ、これを愛の心でキリストと共に捧げ、克服することです。こうしていると世の光であるイエスは、最終的に光の中に招き入れてくださいます。この盲人が人々の前でキリストを実は神であると言ったように、わたしたちも洗礼を通して光であるキリスを証しする者となりますように！もしこのために迫害されるなら喜びましょう！キリストの名のために迫害されているのですから。

（Sr. Paulina）

ここに懸ける　　石原淳子

先の大相撲は祝賀の歓声に包まれました。

めでたく横綱が誕生し、しかも久しぶりの日本出身の横綱とあって、テレビ、新聞の報道も大変賑々しく、普段はあまり関心を持つことのない私も、賑わいにつられてニュースに目を向けたりでした。

興味深かったのは、横綱伝達式での拝受の口上というのでしょうか、協会から推挙を受けて「謹んでお受けします」に続いて、本人の心意気のほどをどのような言葉をもって表明するのかが、あれこれと楽し気に取り沙汰されていたことです。　何でもここ暫くは四字熟語をもって表すことが慣例であったとか。

「不惜身命」「一所懸命」「全身全霊」「一意専心」といった格調高い四字熟語が使われたそうですが、こうして並べてみてどれをとっても私自身とても心が惹かれる言葉であり、字句を眺めながらついつい思いつくことなどをさまざまに追いつつすること暫しでした。

これらの言葉に共通するのは、とにかくここに懸けるという強固な意志、そして心を尽くし魂を尽くし知を尽くすという覚悟の表明であるのでしょう。　透徹したひたむきな精神のたたずまいといえます。

例えば私たちにたとえようのない感動をもたらしてくれる、スポーツ界の精鋭の選手たちを思います。　彼らはそのほとんどが、物心つくかつかないかの幼児の頃からもうその世界のただなかにいて、初めは遊びとしての親しみなのでしょうが、しかしやがて向上へと目覚め、日夜精進し、心身の鍛錬に励み、そして10年20年と全てをこの一事に懸けてゆきます。　身を削るような努力は、自ずと人格の錬磨でもあるでしょう。　そして、重要になるのが他の人との競い合いです。切磋琢磨し競い合ってその世界の頂点に立つことこそが、目指すところであるのです。

スポーツの世界ほどの明確さはないとしても、芸術の世界やまた学問の世界にあっても、どうしても競い合うことは必須と思われます。　ほんとうになぜなのかと思うのですが、競い合っての上達進歩であるようです。

最近読んだ小説に、国際コンクール入賞を目指すピアニストたちの熾烈な競い合いが描かれていて、ひとつのことに心身を尽くして懸けきってゆく者の内面世界が繊細に語られ、深い感動を覚えました。

「一意専心」すべてここに懸ける「全身全霊」いのちがけの集中力が、遂には

或るわが域を突破して、堰を切って流れ入る自由に満ちた異次元の世界を、広やかに迎える至高体験にまで導かれていくさまが、明るく温かな筆致で描写され、私は深い魂の共感をもって読んだのですが、「一意専心」「全身全霊」「一所懸命」を生きる人間の精神の限りなさを目の当たりにする思いで、感嘆とそしてこみ上げてくる感謝の念を覚えたことでした。

自分の力でやっているうちはまだまだで、何者かが降りてきて自分を動かすときこそが、その人の創造の核となるのだというようなことをきいたことがありますが、ほんとうにその通りなのだと深く頷く思いです。　何者かが降りてくるのなら、必ず何らかの破壊と引き換えではないでしょうか。　域を打ち破られてこそ与えられる新しい創造の核であるのだと思います。　底知れぬ集中力は、時として他を傷つけずにはおかない純度の高さを示すのでしょうが、そのことが普遍に届く魂の営みを支え、私たちに感動をもたらすのだと思います。

それではと私は思いました。

神さまだけに懸けるというのはどのようなことなのかと。　「一意専心」といってもここには例えばバレエとか卓球とか相撲といったそれとわかる具体的な事柄はありません。　愛に懸ける、キリストを全てとするといってもあまりにも茫洋としていて、つかみようがない感じがします。　でも、神さまだけに懸けるというならやはり全てに懸けるのでしょう。　この日常も、非日常も、あのこともこのことも、私に関わる私ではないもの全部です。

今思ってみるのですが、全てに懸けるその全てとはもしかしたら私の内にあるのではないでしょうか。　心の内に在る何かに「全身全霊」「一所懸命」懸けることではないでしょうか。

そして思ってみるのですが、実に競い合いはここにもあるのです。　競争相手は神さまです。絶対に神さまに勝ってはならない競争です。　いつどんなときも私ではなく神さまが一番なのです。　私が勝ってはならないこの競い合いは、ピアノコンクールやオリンピックで私が一番になるのと同じくらいに困難な競争かもしれないと思うのですが、神さまだけに懸けるとはここを生涯精進してゆくことなのだと思っています。　大事なことは神さまは常に降りてきてくださっているということです。　そうだとしたらひたすらに信頼しひたすらに祈りつつ歩んでいくことなのだと思います。

私は若い頃から「神さま一番、私は二番」と何かのコマーシャルのような呪文をずっと唱え続けてきているのですが・・・。

いのちの言葉　3月

神と和解させていただきなさい。

（ニコリント５・20）

世界各地で、戦争による流血が絶えまなく続いています。戦争は家族や民族などすべてを容赦なく巻き込みます。

20歳のグロリアが話してくれました。「ある村が焼き討ちにあい、村人の多くが何もかも失ったと知り、私は友人と一緒にふとんや衣類、食料品などの救援物資を集め、８時間かけてその村に行きました。

村には、悲しみに打ちひしがれている人々の姿がありました。彼らの話に耳を傾け、抱きしめながら一心に励ましました。

ある人は言いました。

『小さな娘が焼き払われた家の中にいました。あの子と一緒に私も死んだのも同然です…。でもあなたたちのおかげで、こんなにひどいことをした人たちを赦す力をもらいました』と打ち明けてくれました。」

使徒パウロもまた、赦される体験をしました。キリスト教徒を激しく迫害していた[1]彼は、まったく予期せぬかたちで、神の憐れみと無償の愛に出会いました。そのときからパウロは、神との和解の使者となり[2]、死んで復活されたイエスの神秘を力強く証しする者として生まれ変わりました。すべての人が、神の無償の愛によって与えられた和解の恵みを通して、神との交わり、兄弟の交わりを生きることができるようになるためでした[3]。「神と和解させていただきなさい」というメッセージは、神の救いから遠く離れていると思われていた異邦人をも惹きつけ、広く伝えられることになったのです。

キアラの語っていたことを読んでみましょう。

「神は、十字架上での御子の死を通して、最高のかたちでその愛を私たちにお示しになりました。キリストの十字架によって、神は私たちをご自分と和解させて下さったのです。私たちの信仰の基盤であるこの真理は、現代にあっても大きな意味をもっています。

『いつも傍にいて、私のことを深く愛しておられる方がいる』 ... こんなメッセージを、人々はどれほど待ち望んでいることでしょうか。

この真理を知ってもらうには、伝える相手も必要ですが、何よりもまず自分自身が繰り返しこのメッセージを思い起こすことが求められるでしょう。目の前の現実がその真逆のように思えるときにも、実は自分が神の愛に包まれていたことに気づく、そのときが訪れるまで、信じ続けることです。

私たちの一挙一動で、伝えようとするメッセージが本物かどうかが試されます。」

自分の犯した間違いに気落ちしたり、神の助けなど必要ないと思い込んだりす

ることもあるでしょう。そんな私たちを、神は憐れんで下さり、心を癒し、解放して下さいます。神は、人類とすべての被造物の上に平和をもたらすことを望んでおられます。心を癒された私たちも、経験を分かち合い、証しとなることによって、この神のご計画の実現のために貢献できるでしょう。

キアラの言葉を続けましょう。

「『兄弟が自分に反感を持っているのを思い出したなら、祭壇に供え物を捧げる前に、まず行って仲直りをしなさい(マタイ５・23-24 参照)』と、イエスもはっきり言われました。イエスが私たちを愛されたように、私たちも互いに愛し合いましょう。壁を作らず、偏見を捨てて、相手の良さを積極的に見出し、尊重すること。互いに命を与えるほど愛し合う覚悟をもつこと。これこそイエスの最も重要な掟であり、キリスト者の特徴といえるものです。キリストの弟子たちにとってそうであったように、現代でもこの掟は大切なものです。これを生きるとは、和解をもたらす人になる、つまり互いに受け容れ合うようになることを意味します。」

私たちも日々、家庭の中や家族と家族の間、また教会の中や諸教会の間で、さらにはそれぞれが属する地域社会の中で、友情と和解をもたらす者となれるよう努めましょう。

レティツィア・マグリ

レティツィア・マグリ
ローマ・ラ・サピエンツァ大学で生物学を専攻後、教皇庁立ラテラノ大学・結婚と家庭のための教皇庁立研究所「ヨハネ・パウロ２世」にて修士課程修了。２児の母。夫ルカとともにフォコラーレ・新しい家庭運動国際事務局でコミュニケーション・養成を担当。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

関東　藤沢の一日マリアポリ
　　とき　　３月12日（日）１０：３０～１６：００
　　ところ　　カトリック藤沢教会センターホール
いのちの言葉の集い
（週日に、調布、鶴沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも）
中部　　３月12日　（日）１４：００～　瀬戸市みずの坂　サポートハウスゆうや
▸詳細は各フォコラーレセンターまで。

連絡先：フォコラーレ東京 042-387-1205/03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com
ホームページ：conil157ch1.wix.com/focolare-jp

---

[1] 使徒言行録 22・4 参照
[2] コリント 5・22 参照
[3] エフェソ 2・13 参照

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
・CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO・

<< **Communications**（時事通信）>>

2017年02月03日

ニカラグアのカルメル会の司教、２０１６年の教会パーソナリティに

オンラインによるスペイン語の宗教的な雑誌“レリヒオン　ディヒタル”によれば、私たちの兄弟、ニカラグアのマナグア大司教区のホセ・シルヴィオ・バエス・オルテガ補佐司教は、２０１６年のニカラグアの教会パーソナリティ（最も魅力ある人物）に指名されたとのことです。

彼の今回の栄誉は、長年にわたり、ニカラグアにおける人権侵害を、福音の立場から非難し続けた功績ばかりでなく、司牧者として、人々に奉仕し、献身したことに対するものです。すなわち、彼は、謙遜な者として、最も貧しい人々を愛し、すべての人々に神と聖書を愛するよう教えたのです。

その記事によると、彼の司教としての活動は、ニカラグアのカトリック教会信徒だけでなく、以前はさまざまな問題で教会の姿勢を支持しなかった人々からも、ますます感謝されています。

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>>

14//02//2017

Cause for canonization of Sister Lucy of Fatima

On the coming 13th of February, the diocese of Coimbra in Portugal will conclude the diocesan section of the process for canonization of Sister Lucy Dos Santos, a Discalced Carmelite nun and one of the three Fatima visionaries. The Cause will now begin to be analyzed in the Vatican by the Congregation for the Causes of the Saints.

For the occasion, after the ceremony of closing takes place, a thanksgiving Mass will be celebrated for all those in the Coimbra Carmel. Following this, there will be a concert in the city Cathedral.

Sister Lucy was a Discalced Carmelite religious for 57 years and, after her death in 2005, was buried in the Basilica of Our Lady of the Rosary in the Fatima Sanctuary.

糸巻き棒からペンへ(18)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

この点を、著作家であり創立者であったテレジアについて語る以下の章で深めていきましょう。ここでは、この具体的な分野で、聖女が、言葉と著作によって、同時代の多くの人々に著しい影響を与えたことを思い出すだけで十分でしょう。彼らは、聖女のメッセージによって確信させられたのです。たとえば、神学者のドミンゴ・バニェス、異端審問官のフランシスコ・デ・ソト、カルメルの改革運動の同士、十字架の聖ヨハネ、そして聖女の作品を最初に出版した偉大な人文主義者ルイス・デ・レオン修士がいます。

宗教の支配的な時代

その時代のもっとも目立った特徴は、間違いなく、社会の全階層に等しく影響を及ぼした深い宗教的な動きです。宗教的な動きは絶えず起こり、人々の生活を、市民生活と教会生活の分離を引き起こすことなく、あらゆる次元で巻き込んでいました。そのことは、無数の修道院や教区の教会や隠遁所、またスペインの全領土内に普及した、その時代の宗教儀式ために造られた建造物などを見るだけで十分でしょう。

その時代の文学を読むと、町だけではなく田舎でも、公共の場でも家庭の団欒においても、宗教的な問題が語られていたことが分かります。たとえば、聖体祭儀におけるキリストの現実的な現存について、煉獄の存在について、諸秘跡をふさわしい態度で受けることの重要さについて、また救われるためによい業を行なうことについて等々。

その時代の遺言書には、故人の経済状態によりますが、いくぶん盛大に、ミサや代祷を行なうための基金が必ず書かれています。またさまざまな身分の人々によって遺産として残される財産目録には、決まったように、宗教的なモチーフの絵や像が含まれています。とはいえ、きわめてまれな場合ですが、世俗的なモチーフのものもあります（これらのことは、ほとんど例外なく宗教的な作品で支配されているスペインの美術館のコレクションを見るだけで十分でしょう。それは、風景画で一杯のオランダとも神話の場面を扱うイタリアとも異なります)。同じことが、文学についても言うことができます。実際、15 世紀中葉から 16 世紀中葉の間（この時期に、「禁書目録」が現れます)、スペインでは何百という修徳神秘神学の書物が出版されたのです。

（続く）

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

2017年 カルメル会
四旬節講話シリーズ

三位一体の聖エリザベトの祈り

ー現代人へのメッセージー

日時: 3月5日(日)　片山　はるひ氏　(ノートルダム・ド・ヴィ)

「エリザベットとともに生きる　-永遠の光のもとでー」

3月12日(日)　大瀬　高司神父　(カルメル会司祭)

「続・歴史の中の三位一体のエリザベト」

3月19日(日)　九里　彰神父　(カルメル会司祭)

「三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘」

3月26日(日)　Sr.ポーリン・フェルナンデス　(カルメル宣教修道女会)

「三位一体のエリザベトによる『聖書に基づくキリスト中心の生活』」

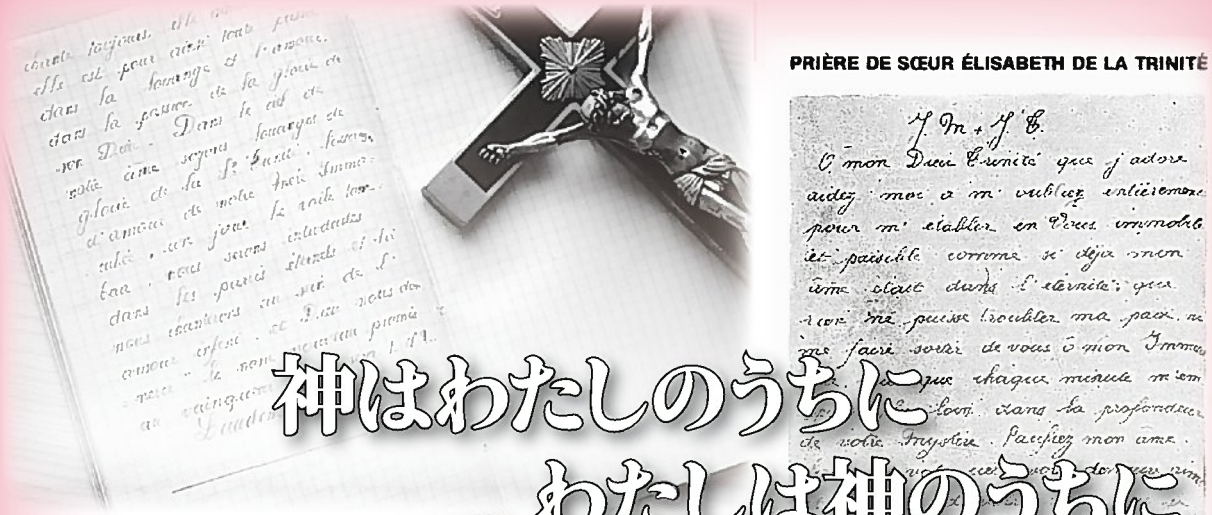
4月2日(日)　松田　浩一神父　(カルメル会司祭)

「父と子と聖霊の唯一の神を信じる　ー三位一体のエリザベトと共にー」

＊上記の各日曜日、午後2時半開始、入場無料(講話後、　主日ミサ)
(カルメル修道会主催)

場所: カトリック上野毛教会聖堂

(東急大井町線上野毛駅下車　徒歩7分)
世田谷区上野毛2-14-25　カルメル修道会　(TEL.03ー3704ー2171)



神はわたしのうちに わたしは神のうちに

三位一体のエリザベットとともに生きる

伊 従 信 子

ISBN978-4-88216-264-3 C0116
定価**540**円(税込) 197頁
【聖母文庫】217

ご注文承り中

「わたしの一生に太陽の光がさんさんと注いでいたのは、『心の深みに住まわれる神』と親しくしていたからでした。」
2016年10月16日に列聖された三位一体のエリザベットの26年間の生涯とその熱い信仰に迫る一冊です。

ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社 〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

上野毛霊性センター　2017年4月～2018年3月

黙想企画　＊＊上野毛聖テレジア修道院（黙想）＊＊

１．祭日のミサに参加するために

【聖週間】　　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

２０１７年　４月１３日(木)夕食～１６日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

２０１７年１２月２４日(日)～２５日(月)朝食《講話なし、夕食なし》

２．日帰り一日黙想会　　１３時３０分～１６時　　福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

２０１７年

４/６（木)、４/２８（金)、５/１２（金)、５/２５(木)、６/１５(木)、

６/３０（金)、７/７(金)、７/２０(木)、９/２１(木)、１０/２７(金)

１１/１０(金)、１１/３０(木)、１２/７（木)、１２/２２(金)、

２０１８年

１/１１(木)、１/２６（金)、２/８(木)、２/２３(金)、３/８(木)、３/２３（金)

＊各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

＊申し込みは、３か月前より受付致します。

３．奉献生活者のための黙想会

２０１７年

８月　１日（火）１７時～　８月１０日（木）朝　　福田正範神父

８月１６日（水）１７時～　８月２５日（金）朝　　福田正範神父

１２月２７日（水）１７時～２０１８年１月５日（金）朝　　福田正範神父

４．奉献生活者ならびに一般信徒のための黙想会

２０１７年

１０月１０日（火）１７時～１０月１９日（木）朝　　福田正範神父

５．青年黙想会(男女)　35 歳位まで

２０１７年

４月２２日（土）１６時～２３日（日）１６時　　カルメル会士

２０１８年

２月１０日（土）１６時～１２日（月）１６時　　カルメル会士

６．召命黙想会(男女)　40 歳位まで

２０１７年

１１月３日（金）１６時～５日（日）１６時　　カルメル会士

７．四旬節黙想会（テーマ：ゆるしの喜び）

２０１７年

３月　１８日（土）１８時夕食～２０日（月）１６時　　福田正範神父

８．特別黙想会　　Ｓｒ．伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

２０１７年

１２月８日（金）２０時～１０日（日）１６時

＊　日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。

＊　こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。

＊　間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25

Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

＊＊＊＊＊＊日帰り黙想会＊＊＊＊＊＊

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ” とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。
「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章６章２５)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

＊企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。
午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前１０時～ご利用が可能です。
昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。
費用：午後からのご参加・・・・￥２０００、午前からのご参加・・・・￥３５００

日時：	２０１７年	３月　９日（木）	午後１時３０分～午後４時
		３月２４日（金）	〃
		４月　６日（木）	〃
		４月２８日（金）	〃
		５月１２日（金）	〃
		５月２５日（木）	〃

お問合せ・お申込み
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
〒１５８－００９３　東京都世田谷区上野毛　２－１４－２５
ＴＥＬ．０３－５７０６－７３５５
ＦＡＸ．０３－３７０４－１７８９　Ｅメール：
Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp

四旬節黙想会

日時：　２０１７年3月１８日（土）１８：００～２０日（月）１５：００

指導：　福田正範神父

場所：　カルメル会上野毛聖テレジア修道院黙想の家

会費：　¥12,000

お問合せ、お申込み：ＴＥＬ．０３-５７０６-７３５５　ＦＡＸ０３－３７０４－１７８９

Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp

〒１５８－００９３世田谷区上野毛２－１４－２５

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

聖週間の典礼に参加するための黙想会

聖なる過ぎ越しの三日間の典礼に参加し、黙想しましょう。

＊日時:　4月13日(木)夕食～16日(日)朝食後 10 時まで

13日(木)は、午後 3 時より入室できます

＊費用:　一泊￥5000(一泊から可)

＊お問合せ・お申込みは、上野毛聖テレジア修道院(黙想)

電話:　03－5706－7355　FAX:　03－3704－1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp

＊＊＊＊＊＊＊上野毛教会聖週間の典礼ご案内＊＊＊＊＊＊＊＊

4月13日	聖木曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		19:30	主の晩餐の夕べのミサ　洗足式
4月14日	聖金曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		15:00	十字架の道行
		19:30	主の受難
4月15日	聖土曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		19:00	復活の聖なる徹夜祭　洗礼式
4月16日	復活の主日	7:00　8:30　10:30　18:00	

奥村一郎選集

追悼　奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも本体 2000 円+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻　慈悲と隣人愛　解説・西村惠信
日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。
カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行

第2巻　多文化に生きる宗教　解説・橋本裕明
宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。
大いなる賭け――宗教対話／日本人とキリスト教――遠藤文学の魂

第3巻　日本の神学を求めて　解説・小野寺 功
日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。
日本の神学――根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟

第4巻　日本語とキリスト教　解説・阿部仲麻呂
関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻　現代人と宗教　解説・鶴岡賀雄
宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っていけるのか。
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻　永遠のいのち　解説・八木誠一
生と死、罪と恵み、正義と愛――人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。
嬰児復帰／人間の栄光と悲惨／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻　カルメルの霊性　解説・高園泰子
愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻　神に向かう〈祈り〉　解説・高橋重幸
東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻　奉献の道　解説・宮本久雄
すべての人にみずからを与えつくす奉献生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。
清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5
ＴＥＬ：03-3322-7601　ＦＡＸ：03-3325-5322
ホームページ：http://www.oriens.or.jp/

２０１７年　　黙　想　会　案　内（宇治カルメル会）

【一般のための黙想】１泊２日（午後５時～午後４時）

1月7日(土)～8日(日)	真の幸いへの道	中川博道神父
7月15日(土)～16日(日)	ロサリオの道：キリスト者の歩み	中川博道神父（仮）
10月7日(土)～8日(日)	テレーズと共に生きる	中川博道神父（仮）

【聖書深読黙想会】１日(午前10時～午後４時)

1月14日(土)	7月 1日（土）	中川博道神父
3月11日(土)	9月23日（土）	中川博道神父
5月27日(土)	11月25日(土)	中川博道神父（仮）

【水曜黙想】(午前10時～午後４時)

1月18日(水)	社会の中でキリストに従う（１）	松田浩一神父
2月22日(水)	社会の中でキリストに従う（２）	松田浩一神父
3月15日(水)	家族の保護者聖ヨセフに習う	Sr.ロサ
4月19日(水)	復活したイエスをさがす教会	中川博道神父（仮）
5月17日(水)	ファティマの聖母	松田浩一神父（仮）
6月 7日(水)	社会の中で父と子と聖霊の唯一の神を信じる（１）	松田浩一神父（仮）
7月 5日(水)	社会の中で父と子と聖霊の唯一の神を信じる（２）	松田浩一神父（仮）
9月 6日(水)	嵐の中で試される信仰	Sr.ロサ
10月18日(水)	聖なるミサ　聖祭と聖母マリア	松田浩一神父（仮）
11月29日(水)	「ラウダート・シ」を生きる	中川博道神父（仮）
12月13日(水)	十字架の聖ヨハネの新しい人間	松田浩一神父（仮）

【聖テレーズの黙想】(午後５時～午後４時)

9月30日(土)～10月1日(日)	テレーズ帰天120 周年	松田浩一神父（仮）

【キリスト教霊的同伴】午後８時～午後３時まで、(金)夕食なし

1月27日(金)～28日(土)	7月7日(金)～8日(土)	松田浩一神父
2月24日(金)～25日(土)	9月1日(金)～2日(土)	松田浩一神父
3月17日(金)～18日(土)	10月20日(金)～21日(土)	松田浩一神父
4月 7日(金)～8日(土)	11月24日(金)～25日(土)	松田浩一神父
6月 2日(金)～3日(土)	12月15日(金)～16日(土)	松田浩一神父

【四旬節の黙想】(午後５時～午後４時)

3月18日(土) ～19日(日)	真に生きる道を探して	中川博道神父

【待降節の黙想】(午後５時～午後４時)

12月2日(土)～3日(日)	神の秘められた計画	松田浩一神父（仮）

【カルメル青年の集い】（午前 10 時～午後 4 時）

6 月 4 日(日)	キリストの過越しの実り　聖霊降臨	松田浩一神父（仮）
11 月 23 日(木)	キリスト者の聖性の道	松田浩一神父（仮）

【一般のためのカルメルの霊性セミナー】（午後 5 時～午後 4 時）

2 月 10 日(金)～11 日(土)	カトリック教会の教えとイエスの聖テレジアの霊性	松田浩一神父
5 月 2 日(火)～5 日(金)	カトリック教会の教えとカルメル観想生活	松田浩一神父（仮）
10 月 14 日(土)～16 日(月)	イエスの聖テレジアの「自叙伝」(2)	松田浩一神父（仮）
12 月 13 日(水)～14 日(木)	十字架の聖ヨハネの新しい人間（2）	松田浩一神父（仮）

【奉献生活者の黙想】（午後 5 時～午前 9 時）

8 月 7 日(月)～16 日(水)	中川博道神父（仮）
8 月 18 日(金)～27 日(土)	松田浩一神父（仮）
11 月 7 日(火)～16 日(木)	中川博道神父（仮）
12 月 27 日(水)～1 月 5 日(金)	松田浩一神父（仮）

【English Retreat】(10am to 4pm)

3 月 4 日(土)	Cross is the hope for our life.	Sr.Rosa
6 月 10 日(土)	A day with St.Therese	Sr.Rosa
11 月 18 日(土)	A pilgrimage to Jerusalem with Magi	Sr.Rosa

【祭日のミサに参加するために】

＜聖週間を祈る＞（講話なし、各食事付き）

4 月 13 日（木）～4 月 16 日（日）チェックイン午後 4 時以降可、チェックアウト午前１１時

（聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。）

＜クリスマス＞（講話なし、各食事付き）

12 月 24 日（日）～12 月 25 日（月）チェックイン午後 4 時以降可、チェックアウト午前１１：３０

―その他皆さまが企画なさったグループ黙想会個人黙想も歓迎いたします―

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけ FAX、はがき、E メールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前 9 時～午後 5 時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016，　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人のための霊的同伴』
―日常のキリスト教霊性を求めて―

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、外的・内的沈黙のうちに行われる**霊的同伴（スピリチュアル・コーチング）**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点**（霊的理解）**を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴（一人 30 分）**を行います。
- メソードの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。そのため、修道院的沈黙のひと時となります。

【参加者人数】　　6 名

【開催日】　2017年　1月27日（金）～28日（土）
2月24日（金）～25日（土）
3月17日（金）～18日（土）
4月　7日（金）～　8日（土）
6月　2日（金）～　3日（土）
7月　7日（金）～　8日（土）
9月　1日（金）～　2日（土）
10月20日（金）～21日（土）
11月24日（金）～25日（土）
12月15日（金）～16日（土）
（毎回金曜日　20 時（夕食なし）～土曜日 15 時）

【参加費】　各回 6，500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父（カルメル会士）

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院（黙想）へ FAX、はがき、E メールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39－12
カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）
Tel　0774－32－7016、Fax　0774－32－7457
E-Mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

宇治聖テレジア修道院（黙想）の「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。**その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。**よろしくお願いいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：７２０５８０５
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：５６８４５３９１
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062　愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-571-1558　Fax:　052-681-6445

《2017年 名古屋一日静修 》

三位一体の聖エリザベトの祈り

— 現代人へのメッセージ —

3月20日（祝）午前10時～午後4時

講　師　古川利雅 神父「いのちの泉であるお方とともに」
場　所　カトリック日比野教会　信徒会館
（地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約５分）
参加費　１０００円
持ち物　聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
申込み　下記いずれかの方法でお申込み下さい。
FAX ／ 0568 - 62 - 5167
-mail ／seisyuu_2015@yahoo.co.jp
ハガキ ／〒484-0076 犬山市橋爪一丁田１－26
「名古屋一日静修」係り

２０１７年度日程と講師「テーマ」

- 3月20日（月）古川利雅神父
  「いのちの泉であるお方とともに」
- 5月20日（土）須沢かおり氏
  「わたしは、光へ、愛へ、命へ行きます」
- 7月17日（月）松田浩一神父
  「父と子と聖霊の唯一の神を信じて生きる
  －三位一体のエリザベトと共に－　」
- 9月23日（土）片山はるひ氏
  「エリザベトと共に生きる
  －永遠の光の　もとで－」
- 11月25日（土）Sr. ポーリン・フェルナンデス
  「三位一体のエリザベトによる
  『聖書に基づくキリスト中心の生活』」

プログラム

9：45	受付け
10：00	導入の祈り（聖堂）
10：20	第一講話（信徒会館）
11：30	念 祷 ＊
12：00	昼 食（信徒会館）
12：30	念 祷 ＊
13：00	第二講話
14：00	念 祷
14：30	ミ サ（聖堂）
15：30	茶話会（信徒会館）
16：00	終了の祈り

＊希望者は赦しの秘跡または面接を受ける事ができます

跣足カルメル修道会主催、カルメル在世会協賛

金沢黙想案内

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会　聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ　レジナ　終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬 3 丁目 324 番地

カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076-244-7788

聖書深読センターのご案内

１　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
２　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち１箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

１　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。
講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。
費用：６ヶ月２０,３６０円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は１９,１３０円
講師：九里彰師（奇数月）　今泉健師（偶数月）
問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル
私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課
電話 03-3344-2527（直通）

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局　Ｓｒローザにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：九里彰神父　　事務局長：今泉健神父　　連絡先：Ｓｒローザ
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内

心のいほり　内観黙想センター
真命山　霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。 電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572－0001 大阪府寝屋川市成田東町3－27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2017年予定

T1 03/12（日）-03/18（土）兵庫西宮・トラピスチヌ
K2 03/27（日）-04/01（土）東京小金井・聖霊会
N1 05/07（日）-05/13（土）滋賀唐崎・ノートルダム
K2 06/11（日）-06/17（土）東京小金井・聖霊会
T2 07/02（日）-07/08（土）兵庫西宮・トラピスチヌ
T3 09/03（日）-09/09（土）兵庫西宮・トラピスチヌ
N2 10/10（火）-10/16（月）滋賀唐崎・ノートルダム
K3 11/05（日）-11/11（土）東京小金井・聖霊会
T4 12/03（日）-12/09（土）兵庫西宮・トラピスチヌ

2018年予定

K1 05/06（日）-05/12（土）滋賀唐崎・ノートルダム
K2 10/07（日）-10/13（土）滋賀唐崎・ノートルダム

真命山

祈りの集い

年間のテーマ

山上の教え

2017

年度行事のご案内

祈りの集い（10 時？15:00 時）

1 月12 日　幸せの道・イエスの山上の垂訓　（マタイ5?7）

2 月 9 日　心の貧しい人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。（マタイ5・3）

3 月 9 日　柔和な人々は、幸せである、その人たちは地を受け継ぐ。（マタイ5・4）

4 月 20 日　悲しむ人々は、幸せである、その人たちは慰められる。（マタイ5・5）

5 月 11 日　義に飢え渇く人々は、幸せである、その人たちは満たされる。（マタイ5・6）

6 月 8 日憐れみ深い人々は、幸せである、その人たちは憐れみを受ける。（マタイ5・7）

7 月 13 日心の清い人々は、幸せである、その人たちは神を見る。（マタイ5・8）

8 月 休み

9 月14 日平和を実現する人々は、幸せである。その人たちは神の子と呼ばれる。（マタイ5・9）

10 月 12 日義のために迫害される人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。（マタイ5・10）

11 月 9 日幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人たちである。（ルカ11・27? 28）

12 月 14 日見ないのに信ずる者は、幸いである。（ヨハネ20・29）

指導者　ロッコ　神父

？　個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山　諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻蛉浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内　２０１６年～２０１７年

●キリスト教入門講座
金曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座
毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー　下記（予定）の土曜日：
9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2016年度：倫理と霊性の基礎づけII近代・現代
冬学期：10/1, 10/8, 10/15, 10/22, 10/29, 11/5
11/12, 11/26, 12/3, 12/17
2017/1/7, 1/14, 1/21, 1/28

●ミサ
水曜日 17時10分－18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想
・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分－20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。
8月23日は、上智大学内クルトゥルハイム2F聖堂。
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分－12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時－18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

・「黙想会」
6月18日(土)10時－19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)－20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)－19日(日)（上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切りは、初日の8日前。
[関西] 9月24日(土)13時30分－25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中).

●祈りの集い
・下記の土曜日 13時30分－16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
2016年
10月1日、11月12日、12月3日
2017年
1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分－16時50分

●坐禅会
・月曜日、木曜日　17時45分－20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心
10月30日(日)　20時20分—11月3日(木)　8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。
[関西]
宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会
下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時－18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
2017年1月29日(日)。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座　2016-17年
日時　毎週金曜日
18時45分～20時30分

11/4　父と子と聖霊― 神の生命に与る
11/11　信仰の決断― 支えられて生きる
11/18　ミサ祭儀― 神への奉仕と生活の糧
11/19-20 ●黙想会（上石神井）
11/25　自己実現と神の意志― 生き方の規範
12/2　人間の弱さ― 罪とは何か
12/9　恵みとゆるし― 神の憐みを受ける
12/10　◆クリスマス・パーティ（16時ミサ、17:30パーティ、岐部ホール4階404,要申込み）
12/16　愛の心― キリスト教の本質
12/23　◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
12/25　●クリスマスの黙想(18時50分-20時10分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)
1/6　隣人愛― 他人の内にイエスに出会う
1/13　希望を持つ勇気― 未来に向かって歩む
1/20　霊の動き― 福音による生き方
1/27　秘跡と教会生活― 毎日を支える信仰
2/3　神の言葉― 神との日常的な対話と黙想の仕方
2/10　結婚と独身― 愛の道
2/17　信徒・司祭・修道者― 誰もが召されている
2/18-19●黙想会（上石神井）
2/24　仕事という人間の課題―社会と教会に寄与して働く
3/3　人間の苦悩―悪とは何のためか
3/10　死―その受け入れと克服
3/17　人生の完成―神の内に生きる
3/24　聖母マリア―信じる者の原型
3/31　限りのない救い―匿名のキリスト
4/16　◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)

キリスト教理解講座　2016-17年
日時　第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

［聖霊］
12/6　神の内的現存 ―人間における聖霊の働き
12/10　◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404;要申込み)
12/20　三位一体の神 ―― 救いの構造から神内の存在へ
12/23　◆クリスマスのミサ(14時、クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
12/25　◆クリスマスの黙想(18時50分－20時10分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂)

［教会］
1/17　信仰者の共同体 ―― 教会の本質
1/31　救いのしるしと実現 ―― 秘跡の意味
2/18-19 ●黙想会(上石神井)
2/21　「聖徒の交わり」―― 世界の只中のキリスト
3/7　人間と世界の究極の未来 ―― 終末の約束
3/21　信仰者の原型 ―― 聖書に見られるイエスの母
4/16　◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03・3263・4584
クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102－8571　千代田区紀尾井町7－1
上智大学SJハウス
電話　03－3238－5124（直通）　－5111（伝言）
Fax　03－3238－5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

講話と祈りの集い

＊特別祈りの集い＊

福者幼きイエスのマリー＝ユジェーヌ神父と歩む

祈りの道

日　　時　：　3月20日（月・祝日）午前 10：30～午後 4：30 頃まで

場　　所　：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

プログラム　：　講話・祈り・質問　※テキストはこちらで用意いたします。

定　　員　：　５０名 先着順（要申込み）

講　　話　：　片山はるひ

参　加　費　：　500 円（昼食代を含む）

午前のみ・午後のみ参加の方は 200 円

※定員になり次第、締め切らせて頂きます。必ずお申込み下さい。
※昼食は軽食をこちらでご用意致します。

＊お申し込み・問い合わせ＊

ノートルダム ・ ド ・ ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。　http://sadhana.jesuits.or.jp/

★申込み受付‥開始日の８日前で締切ります

コース	日　時	指導者	開催場所	申込み
サダナⅡ	3/16(木) 9:30– 3:/20(月)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	来間(くるま)裕美子※ TEL090-5325-2518 045-577-0740
入門Ａ	4/9(日) 9:30–17:00	Fr植栗	駒場ザビエルハウス (目黒区駒場)	同上
那須リピーターの会	4/28(金)17:30– 4/30(日)14:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨゼフ山の家	同上
入門Ｂ	5/14(日) 9:30–17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
自己を知る *1泊2日 ×2=合計 4日	5/20(土)9:30– 21(日)17:00 5/27(土)9:30– 5/28(日)17:00	Fr植栗	エスコラピアス修道女会修道院 (世田谷区弦巻)	同上
沖縄 サダナⅠ	6/1((木)17:30– 6/4(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649　Fax:098-945-8720 Sr.名嘉山	
沖縄 フォローアップ	6/5(月) 9:30–17:00	Fr植栗	同上	
フォローアップ	6/11(日) 9:30–17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま)裕美子※ TEL090-5325-2518 045-577-0740

※不在の場合は、渡辺由子　Tel＆Fax ： 042-325-7554

◆サダナⅠ（入門Ａ．Ｂ．Ｃ）

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ

Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門　・・・・入門Ａまたは入門Ｂを終えた方。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所 在 地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3－1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-ﾒｰﾙ： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交 通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日 程：

A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

① 2017年 5月 6日（土）～ 5月14日（日）
② 8月14日（月）～ 8月22日（火）
③ 10月 9日（月）～ 10月 17日（火）
④ 12月27日（水）～ 2018年1月 4日（木）

B. 祈りの体験：週末3日間 （金曜日の夕食～日曜日の昼食）
【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 2017年 2月 3日（金）～ 2月5日（日）
② 2月24 日（金）～ 2月26日（日）
③ 3月 17日（金）～ 3月19日（日）
④ 6月16日（金） ～ 6月18日（日）
⑤ 7月14日（金）～ 7月16日（日）
⑥ 9月15日（金）～ 9月17日（日）
⑦ 11月17日（金）～11月 19日（日）

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2017年 5月30日（火）～ 6月7日（水） 阿部 仲麻呂 師 （ｻﾚｼﾞｵ会）

◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、 ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1）氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ) 2）住所 3）電話番号 4）希望日程(番号) を書いて郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やｸﾞﾙｰﾌﾟ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。 （但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

神のいつくしみを生きる

2017年度　女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	4月22日(土)～23日(日)	なぜそのようなことがあり得ましょうか。	山内十束師(ご受難会)
2	6月10日(土)～11日(日)	おことばのとおり、この身になりますように。	山内十束師(ご受難会)
3	11月11日(土)～12日(日)	神は卑しいはしためを顧みられた。	山内十束師(ご受難会)
4	2月17日(土)～18日(日)	心に納めて、思い巡らす。	山内十束師(ご受難会)

場所：　ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院
〒520-0106　滋賀県大津市唐崎　1-3-1
対象：　独身女性青年信徒
費用：　2,500円（一日参加も可）
申込み・問合せ：　*ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院　シスター桂川*

Tel ：　077-579-2884　Fax ：　077-579-3804
email: karainorind92@mbe.nifty.com

希望への道

―罪なぜそのようなことがあり得ましょうか―

2017年度　第1回　女子青年黙想会

日時：　4月22日（土）15：00 ～
23日（日）15：30 まで
場所：　ノートルダム唐崎修道院　（JR京都駅から30分）
指導：　山内　十束 師　（ご受難会）
対象：　独身青年女性信徒
費用：　2,500円
締切：　2017年4月17日（日）まで

〈申込み・問合せ〉
〒520-0106　滋賀県大津市唐崎　1-3-1
ノートルダム教育修道女会　Sr. 桂川
Tel ：　077-579-2884　Fax ：　077-579-3804
email: karainorind92@mbe.nifty.com

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室　１４：００～１６：００
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

【2016年予定】

~~12月15日(木)『霊の賛歌』第５回目：第３の歌~~ 終了

【2017年予定】

~~１月19日(木)『霊の賛歌』第６回目：第４～５の歌~~ 終了
３月16日(木)『霊の賛歌』第７回目：第６の歌
５月25日(木)『霊の賛歌』第８回目：第７の歌
７月20日(木)『霊の賛歌』第９回目：第８の歌
９月21日(木)『霊の賛歌』第10回目：第９の歌
11月16日(木)『霊の賛歌』第11回目：第10の歌
12月21日(木)『霊の賛歌』第12回目：第11の歌

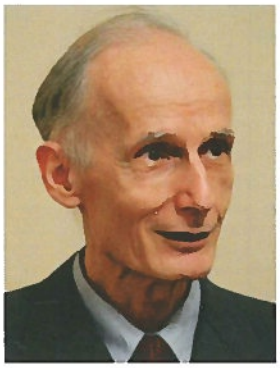
＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）

<<特別黙想会>>

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時
場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）
テーマ：「神のいつくしみに気づく」
指導司祭：九里彰神父
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25
Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789
E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長（-2004）。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

霊性センターニュース

＊年間購読（郵送）のご案内＊

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から 12 月までとなります。
例：6 月申込の場合は、7 月号～12 月号（但し 8 月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250 円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等をご記入の上、
郵送か下記の e-mail でお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」

《e-mail でのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。
＊何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。
Tel: ０３－３７０４－２１７１　Fax: ０３－３７０４－１７８９

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０
加入者名：　カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

新年早々、すべって転倒し、右手首を骨折。先月中頃（6 週間後）ようやくギブスがはずれた。とはいえ、腕の筋肉は落ち、力が入らない。ひねるように動かすと、痛みが走る。結局、全治二ヶ月となってしまった。

ところで、まだギブスをはめていた時のこと。骨折について、「災難のようだが、大変なお恵みの時でもある」と、『霊性センターニュース』に書いたと、人前で話したところ、ある信者さんに、「神父さんは、倒れてもただでは起きませんね」と言われてしまった。

信濃国の受領、藤原陳忠（ふじわらののぶただ）の逸話を思い出した。京に帰る途中、峠の橋にさしかかり、馬もろとも谷に落ちてしまう。死んでしまったと思いきや、谷底から「籠を降ろせ」という声がする。降ろして引き上げると、ヒラタケが一杯載っていた。もう一度降ろすと、今度は陳忠本人が載っていたが、右手にヒラタケを一杯握っていたという。その強欲ぶりが 21 世紀の今になお伝わっている。

（P.九里）

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「４月号」製本日　　３月２８日(火)　上野毛教会信徒会館ホール１階
午後１時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL　03・3704・2171